

令和6年度事業報告

自 令和6年4月1日

至 令和7年3月31日

1. 事業

令和6年2月28日の第26回評議員会（決議の省略による理事会）にて承認された事業計画に則り、「船渠長技術並びに運航操船技術の調査研究及び会誌（含電子書籍）・図書の発行」の事業を行った。

2. 事業の概要

- (1) 船渠長技術並びに運航操船技術の調査研究及び会誌（含電子書籍）・図書の発行事業
(イ) 調査研究及び研究会議等開催事業

3. 活動

（令和6年度総会・研究発表会）

新型コロナウイルス等の感染予防対策を行い東日本支部主催にて横浜市にて開催した。

1. 総会 6月21日（金） 10：30～11：45

研究発表会 6月21日（金）13：30～16：40

2. 会場 横浜市中区 波止場会館 3F 会議室

3. 議題 令和5年度事業報告、決算関係報告

今後の協会運営に関して

その他

4. （参加者17名：順不同・敬称略）

清水昭（由良ドック）、間宮政信（三菱重工マリタイムシステムズ）、田口良成（尾道造船）、品川隆（元三菱重工マリタイムシステムズ）、畑地栄太郎（元三菱重工長崎）、有田翼（新来島サノヤス）、土門正典（株）ヤマニシ、出合泰夫（佐世保重工）、吉野敦（JMU 磯子）、岡村秀朗（JMU 鶴見）、林泰弘（JMU 磯子）、市橋鋭二郎（JMU 津）、竹山祐一（JMU 有明）、田代哲太郎（JMU 因島）、山口強（JMU 鶴見）、小暮文悟（元三菱重工横浜）、井野朱実（事務長）

5. 総会概要

総会に先立ち各自の自己紹介、近況報告を行った。

令和5年度の事業報告・決算関係の説明を配付資料に基づきそれぞれ行った。

社団法人化については元社団法人設立準備委員の田代氏（JMU 因島ドックマスター）よりこれまでの経緯今後の問題点などについて説明がなされた。

（研究発表会）*発表者敬称略順不同

有田氏（新来島サノヤス造船） 『試運転船（64/82BC）入港操船の推移 過去の記録からの反省』

山口氏（JMU 鶴見） 『JMU 横浜事業所鶴見工場FD 『あさの』入渠作業について』

林氏（JMU 磯子） 『会誌「ドックマスター勝手に」60年史』

田代氏（JMU 因島） 『強潮流化における非定常作業（船尾入渠）の実施について』

(令和6年度支部研修会)

各支部に置いて、新型コロナウイルス等の感染防止対策を充分に実施して以下の内容にて開催した。

九州支部研修会

- 1.日 時 11月8日(金) 13:00 ~ 17:00
- 2.会 場 長崎市 長崎勤労福祉会館 会議室
- 3.参加者(6名)*敬称略順不同
小林 畑地 出合 川崎 田島 竹山
- 4.研修会概要

今年度の研修会においては、各参加者とも研修発表がなく、支部長のあいさつに続いて、各参加者にて以下の項目について議論した。

- 1: 各社の操業状況や今後の計画
- 2: 試運転時の疑問点や速力試験について
- 3: 台風襲来時の対応について
- 4: 試運転航海士及び操舵手について
- 5: 操船について

各社とも、LNG やアンモニア等の新燃料船に着手しており、今後の操業についても概ね順調であると感じた。

試運転時の速力試験の位置・針路について、潮流や漁船等に苦労しながら実施している。

今年の台風10号について、当時の対応や避泊地・避泊方法、各社の係船方法について議論した。

また、各社共通して人員の確保には苦労しており、派遣会社、試運転時の定員等について情報を交換した。

操船について、特殊船の操船談や今後、想定される特殊船型について情報交換をした。

西日本支部研修会

第3回目となる瀬戸内地区ドックマスター意見交換会と一般財団法人日本船渠長協会 西日本支部研修会との合同会議として開催。

これまでの「尾道近隣地区ドックマスター意見交換会」の名称を今回新たに「瀬戸内地区ドックマスター意見交換会」と改めた。

- (1) 開催日時: 令和6年11月13日(水) 09:45 ~ 16:45
- (2) 開催場所: 於 尾道造船株式会社 1階大会議室
- (3) 懇親会: 18:00 ~ 20:00 於 尾道市内
- (4) 出席者(敬称略) 13社 22名 (造船所11社 曳船社2社)
 - ・今治造船株式会社広島工場(水谷宗和 小島裕典 岡本岳斗)・岩城造船株式会社(田中久行)
 - ・常石造船株式会社(岡島章悟 山下弘行)・尾道造船株式会社(田口良成 高田淳)・内海造船株式

会社（三輪史郎）・株式会社新来島宇品ドック（木崎忍 河野祐介）・株式会社新笠戸ドック（相川泰崇）・由良ドック株式会社（清水昭）・佐世保重工業株式会社（出合康夫）・株式会社 JMU アムテック（有田翼）・ジャパンマリンユナイテッド株式会社因島事業所（田代哲太郎）・内海曳船株式会社尾道出張所（畑山様 松嶋様 新田様 芦邊様）・三洋海事株式会社（森本様 小林様）

（５）研修会・意見交換会の概要

下記項目について各社間で協議し、活発な意見交換と質疑応答が行われた。後日、議事録を交付して各社間での情報共有を行った。

2024年 台風10号の対策について

係船用ウインチのメンテナンスについて

「領海等における外国船の航行に関する法律及び同法施行規則」の解釈と造船所業務への適用について

夏季時期の熱中症対策について

初めて操船する船の癖の把握方法及び関連事項について

船尾入渠の方法について

各社のドック勾配について

潮流が速い場合の入出渠対応について

ウォーターブラストの採用状況について

ドックマスター要員確保に関する課題と提言について、各社意見と現状報告。

各社の運用・設備・規則に関する意見と問題についての情報交換。

（ペイントダメージ防止法・トランシーバー使用状況・潜水作業の申請について等）

（６）「日本船渠長協会」理事より今後の活動及び運営方針についての報告

東日本支部研修会

1.日時：2024年12月13日(金) 10:00～11:30

2.場所：(株)東洋信号通信社（横浜市鶴見区大黒ふ頭横浜流通センター7F～8F）

3.参加者9名：順不同・敬称略

小暮文悟（元三菱重工横浜）、山口強・吉野敦・林泰弘・大森浩明（以上 JMU）、藤田毅（住重マリン）、土門正典（(株)ヤマニシ）、林俊克・井野朱実（協会事務局）

（施設見学概要）

船乗り、特に航海士にとっては入港、出港等の予定連絡においてポトラジオとVHFでの通信作業は欠かせない業務の一つだがポトラジオがこういった組織で、どのように運営されているのかは余り知られていないので、今回運営会社である(株)東洋信号通信社殿を見学した。

(株)東洋信号通信社の業務について約40分の説明を受けた後、オペレーションルームに移り、実際の作業の様子を見学した。

（研究発表会）

研究発表会は連絡会開催後 JMU の林泰弘氏の【官報情報検索サービスを活用してみた件】が発表され、官報情報検索サービスを有効に活用する方法・実際例等が紹介された。

（令和6年度連絡会）

第1回連絡会

1 日 時：令和6年12月13日（金） 14：30～

2 場 所：横浜レンタル会議室

3 出席者 9名*敬称略順不同

小暮文悟（元三菱重工横浜） 吉野敦・林泰弘・大森浩明・岡村秀朗（以上 JMU） 藤田毅（住重マリン） 土門正典（(株)ヤマニシ） 林俊克・井野朱実（協会事務局）

（会誌ドックマスター）

会誌ドックマスター第159号及び第160号を発行した。

会誌ドックマスターは紙ベースにて発行していたが2021年の第153号からは資源の保護、CO2削減等の観点から一部の会員の方を除き電子版にての配布へと変更した。

会誌はホームページにて一部公開し不特定多数の人の利益に供している。

発行会誌	目次
ドックマスター 第159号 85頁 令和6年8月25日発行	1. 南海トラフ地震について 2. 令和6年度総会報告 3. 試運転船（64/82BC）入港操船推移 4. JMU 鶴見工場FD『あさの本体入渠作業について』 5. 勝手に会誌「ドックマスター」60年史 6. 強潮流下における非定常作業（船尾入渠）の実施と安全対策について 7. 一般社団法人化後の協会運営について 8. 協会社団法人化について 9. 令和5年度事業報告 10. 令和5年度決算書 11. 会員募集
ドックマスター 第160号 78頁 令和7年3月20日発行	1. 令和6年度九州支部研修会報告 2. 令和6年度西日本支部研修会報告 3. 令和6年度東日本支部研修会報告 4. ポートラジオ業務紹介 5. 官報情報検索サービスを活用してみた件 6. 令和6年度連絡会概要 7. 修繕船「ミスピリオン号」の残念な海上運転 8. 会誌「ドックマスター」17号よりの抜粋記事 9. 令和7年度事業計画・予算 10. 賛助会員の募集

(海難防止及び船舶の航行安全等のための各種委員会参画事業)

- 6月20日 日本海難防止協会定時社員総会
- 11月13日 新海面処分場安全委員会
- 11月20日 東京湾海難防止協会第1回横浜新本牧埠頭整備航行安全委員会
- 1月31日 東京湾海難防止協会神奈川支部・東京支部合同地域連絡会
- 2月21日 東京湾海難防止協会第1回横浜新本牧埠頭整備航行安全委員会
- 3月13日 日本海難防止協会臨時社員総会

各会合に出席し意見を述べるとともに、情報を収集して連絡会で紹介、必要な場合は会誌「ドックマスター」に反映させた。

(2)その他この法人の目的を達成するために必要な事業

その他の事業としてドックマスター作業全般に関するコンサルティングについては特に報告するような活動はなかった。

ドックマスターの希望者数名から連絡があり希望造船所等に紹介した。

ホームページでも紹介した。

ドックマスターを募集している造船工場等をホームページにて紹介した。

3. 会員

会員は令和7年3月31日現在、

特別賛助会員はドックマスターの職にある者又はかつてその職にあった者(70名)

特別賛助会員以外の賛助会員は

普通賛助会員(団体)は主に造船工場で、 33 団体

普通賛助会員(一般)は法人又は個人で、 37 団体

である。

(一財)日本船渠長協会会員数(2025年3月現在)			
特別賛助会員	東日本支部	32	70
	西日本支部	22	
	九州支部	16	
普通賛助会員	団体		33
	一般・個人		37
合計			140

4 . 組織

本部 横浜市中区山下町1 シルクセンタービル 328
常勤役員 1名(理事長) 常勤職員 1名(事務長)

支部 3支部 事務所は設けず 支部長のみを置く

東日本支部 JMU(株) 横浜事業所 ドックマスター

西日本支部 由良ドック株式会社 船渠長

九州支部 JMU(株) 有明事業所 ドックマスター

5 . 理事会・評議員会実施状況

理事会 5回(第41回理事会～第45回理事会)

評議員会 2回(第27回評議員会～第28回評議員会)

第43回理事会、第44回理事会(理事長、業務執行理事の業務報告)を除く各理事会並びに各評議員会は全て決議の省略による開催とした。

令和6年度事業報告 附属明細書

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和7年3月31日

一般財団法人 日本船渠長協会

令和6年度正味財産増減計算書

令和6年4月1日～令和7年3月31日

科 目	令和6年度	令和5年度	増 減
一般正味財産の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	7,622	7,622	0
受取利息	7,622	7,622	0
特定資産運用益	355	58	297
受取利息	355	58	297
受取入会金	2,000	7,000	5,000
入会金	2,000	7,000	5,000
受取会費	4,728,000	5,024,500	296,500
特別賛助会員会費	864,000	1,004,000	140,000
普通賛助会員会費(団体)	2,774,000	2,884,000	110,000
普通賛助会員会費(一般)	1,090,000	1,136,500	46,500
雑収入	1,009	12	997
受取利息	1,009	12	997
その他	0	0	0
経常収益合計	4,738,986	5,039,192	300,206
(2) 経常費用			
事業費	4,570,323	4,684,430	114,107
会誌発行費	555,931	468,788	87,143
印刷製本費	319,352	229,724	89,628
原稿料費	64,431	60,122	4,309
編集費	160,334	160,334	0
通信運搬費(送料他)	11,814	18,608	6,794
消耗品費	0	0	0
役員報酬	2,016,000	2,016,000	0
給料手当	510,000	510,000	0
旅費交通費	401,412	564,796	163,384
通信・運搬費(電話料金他)	24,260	43,703	19,443
消耗品費	36,813	45,619	8,806
賃貸料	740,523	741,052	529
会議費	154,078	199,463	45,385
研修会費	131,306	91,529	39,777
雑費	0	3,480	3,480
管理費	1,608,059	1,636,063	28,004
役員報酬	224,000	224,000	0
給料手当	510,000	510,000	0
福利厚生費	22,498	31,216	8,718
会議費	4,864	8,490	3,626
旅費交通費	196,048	333,044	136,996
通信・運搬費(電話料金他)	66,317	48,973	17,344
消耗品費(事務用品他)	37,709	22,804	14,905
会議資料作成費	6,920	2,200	4,720
光熱水道費	61,463	57,136	4,327
賃貸料	185,130	185,262	132
負担金	105,871	95,654	10,217
図書費	99,406	49,813	49,593
雑費	87,833	67,471	20,362
経常費計	6,178,382	6,320,493	142,111
経常収支増減額	1,439,396	1,281,301	158,095
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
役員退職慰労給付引当金	100,000	100,000	0
職員退職給付引当金	100,000	100,000	0
経常外費用計	200,000	200,000	0
経常外収支増減額	200,000	200,000	0
一般正味財産増減額	1,639,396	1,481,301	158,095
一般正味財産期首残高	8,707,673	10,188,974	1,481,301
一般正味財産期末残高	7,068,277	8,707,673	1,639,396
指定正味財産の部			
指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残額	0	0	0
指定正味財産期末残額	0	0	0
正味財産期末残高	7,068,277	8,707,673	1,639,396

令和6年度貸借対照表

令和7年3月31日

(単位:円)

科 目	当年度(R6)	前年度(R5)	増 減
資産の部			
1.流動資産			
現金	12,566	32,904	20,338
普通預金	1,147,034	1,192,330	45,296
郵便振替	341,802	15,563	326,239
流動資産合計	1,501,402	1,240,797	260,605
2.固定資産			
基本財産			
神奈川県民債	5,000,000	5,000,000	0
基本財産合計	5,000,000	5,000,000	0
特定資産			
事業活動準備引当資産	200,000	2,100,000	1,900,000
役員退職慰労金引当資産	400,000	300,000	100,000
職員退職給付引当資産	1,600,000	1,500,000	100,000
特定資産合計	2,200,000	3,900,000	1,700,000
その他固定資産			
敷 金	408,500	408,500	0
その他固定資産合計	408,500	408,500	0
固定資産合計	7,608,500	9,308,500	1,700,000
資 産 合 計	9,109,902	10,549,297	1,439,395
負債の部			
1.流動負債			
預かり金	41,625	41,624	1
流動負債合計	41,625	41,624	1
2.固定負債			
役員退職慰労給付引当金	400,000	300,000	100,000
職員退職給付引当金	1,600,000	1,500,000	100,000
固定負債合計	2,000,000	1,800,000	200,000
負 債 合 計	2,041,625	1,841,624	200,001
正味財産の部			
1.指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2.一般正味財産			
(基本財産への充当額)			0
(特定資産への充当額)			0
負債及び正味財産合計額	9,109,902	10,549,297	1,439,395

令和6年度財産目録

令和7年3月31日

(単位:円)

科 目	金	額
資産の部		
1.流動資産		
現金	12,566	
預金		
三井住友銀行横浜支店	213,152	
三菱東京UFJ銀行横浜支店	917,572	
三井住友信託銀行横浜西口支店	4,821	
ゆうちょ銀行	11,489	
郵便振替	341,802	
流動資産合計		1,501,402
2.固定資産		
基本財産		
神奈川県民債	5,000,000	
基本財産合計	5,000,000	
特定資産		
事業活動準備資産		
三井住友銀行横浜支店	200,000	
定額郵貯銀行(役員退職金)	400,000	
役員退職慰労給付引当資産		
三井住友信託銀行横浜西口支店(定期)	0	
職員退職給付引当資産		
三井住友信託銀行横浜西口支店(定期)	700,000	
ゆうちょ銀行(定額貯金)	900,000	
特定資産合計	2,200,000	
その他		
敷金	408,500	
その他合計	408,500	
固定資産合計		7,608,500
資産合計		9,109,902
負債の部		
1.流動負債		
預かり金	41,625	
源泉所得税		
住民税		
流動負債合計		41,625
2.固定負債		
役員退職慰労給付引当金	400,000	
職員退職給付引当金	1,600,000	
固定負債合計		2,000,000
負債合計		2,041,625
正味財産		7,068,277